

# 地域とともに歩む学校づくり

学校は地域に開かれるとともに、保護者や地域住民に信頼される学校運営をする必要があります。本市においては、平成16年度からすべての市立学校園で学校評議員制度を導入し、学校外の評議員が学校運営に関し意見を述べ、校長は評議員の意見を参考にしながら学校運営を実施しております。

また、平成19年6月の学校教育法、同年10月の学校教育法施行規則の改正により、学校評価に関しては、自己評価・学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者への報告に関する規定が新たに設けられました。このことを受けて、各学校園では、教育活動や学校運営の状況について評価を行い、ホームページなどを通じて、評価結果の公表をするとともに、明らかとなった課題について、その改善を図っております。

ここに、平成25年度の各学校園における「学校評議員の活用」や「学校評価の実施」取組の様子を「地域とともに歩む学校づくり」としてまとめました。各学校園では、この報告書を参考にするとともに、学校・家庭・地域が連携・協力しながら、よりよい学校運営の改善に向けて取組を実施し、開かれた学校、地域から信頼される学校となるようお願いします。

平成26年3月  
奈良市教育委員会

- 平成25年度は420名に学校評議員として奈良市の学校運営に参画していただきました。  
〔奈良市立学校園数：幼稚園38園、小学校47校、中学校22校、高等学校1校〕

評議員の置かれている学校実数

幼稚園38園、小学校45校、中学校20校、小中学校2校、高等学校1校

\* アンケート集計では、小中学校は中学校、高等学校とあわせて集計しています。

## 内容

### 1、学校評議員制度の活用

【学校評議員 役職の内訳】 .....	2
【設置されている学校評議員数】 .....	2
【学校評議員の再任の割合】 .....	3
【校園長が学校評議員に求めた意見例】〔意見を求めた学校園数の割合〕 .....	3
【学校評議員からの意見を教職員全体で共有する仕組み】 .....	4
【学校評議員の方々からのご意見が教育活動に活かされた例】 .....	4

### 2、学校評価の実施

【学校評価を進める仕組みの有無】 .....	5
【評価結果に基づく改善方策の検討を行う体制】 .....	5
【外部アンケート（児童生徒・保護者等を対象としたアンケート）の実施割合】 .....	6
【各学校園が設定した重点的な目標（評価項目）】 .....	6
【学校関係者評価の実施について】 .....	7

### 3、学校評価の成果と課題

【学校評価を行ったことで得られた成果】 .....	8
【学校評価をすすめる上での課題】 .....	9
【学校評価結果から指摘できる、学校が抱かえる学校経営上の課題】 .....	10
【学校評価結果から指摘できる、学校が抱かえる学校経営上の課題の具体的解決策の例】 .....	11

### 4、学校評価と学校ビジョン

【学校評価結果をうけて、改善しようとしている学校ビジョンの内容】 .....	12
--	----

## 1、学校評議員制度の活用

### 【学校評議員 役職の内訳】

役職の内訳	本年度		備考
	人数	割合	
PTA関係	130人	31%	それぞれの項目は元経験者も含む。
民生関係	85人	20%	主任児童委員、児童委員
自治会関係	71人	17%	
教職経験者	26人	6%	
各種協議会	13人	3%	人権教育協議会、安全推進協議会など
学校支援	30人	7%	地域教育協議会、地域ボランティア
少年指導協議会関係	21人	5%	
地域活動関係	11人	3%	
社会福祉協議会関係	14人	3%	
公民館・施設長関係	10人	2%	
万年青年	3人	1%	
一般	6人	1%	

### 【設置されている学校評議員数】

学校評議員数	校種別の内訳（校園数）					合計
	幼稚園	小学校	中学校	小中学校	高等学校	
5人	4園	12校	9校		1校	26校園
4人	12園	28校	8校	2校		50校園
3人	22園	5校	3校			30校園
2人						0校園
合計(校園数)	38園	45校	20校	2校	1校	106校園
総人数	134名	187名	86名	8名	5名	420名

## 【学校評議員の再任の割合】

再任割合	幼稚園	小学校	中学校	小中学校	高等学校	合計
人数(人)	75人	112人	52人	4人	0人	243人
割合(%)	56%	60%	60%	50%	0%	24%

## 【校園長が学校評議員に求めた意見例】 【意見を求めた学校園数の割合】

### 「地域の連携・協力に関すること」

〔幼:95% 小:93% 中高:83% 全体:92%〕

- ・地域で決める学校予算・放課後子ども教室等について
- ・学校行事、学習活動、環境整備等の取組と参加協力について
- ・地域の教育力の発掘について
- ・コミュニティスクールを基盤とした小中一貫教育の積極的且つ計画的な推進について
- ・ボランティアや地域の方々、施設などとの連携のあり方について

### 「学校園に対する評価に関すること」

〔幼:89% 小:89% 中高:65% 全体:84%〕

- ・評価項目について。昨年度との同様にして推移を見ることが必要。記述に注目し、課題を見つけて改善を図っていく。
- ・評価内容について
- ・アンケート結果について。前年度より、上回らねばならないという考えは持たなくてもよい
- ・学校評議員会の回数について。増やしてほしい。もっと様子を見て評価したい。

### 「園児、児童生徒の安全に関すること」

〔幼:76% 小:93% 中高:57% 全体:79%〕

- ・アレルギーをもつ子どもの対応について
- ・警報発令時や社会見学等での下校時刻変更時のサポートネットの活用について
- ・登下校のマナー、自転車通学生の安全運転、防災訓練の実施内容、避難所としての運営計画の作成について

### 「学校の目標としていることに関すること」

〔幼:87% 小:84% 中高:78% 全体:84%〕

- ・目指す子ども像について。家庭教育の目指すところを示してほしい
- ・学校評価に基づいて学校教育活動を行っているかについて
- ・学校目標が適切か、また目標にぶれがないか等について

以下、「教育課程・教育内容に関すること」(全体:69%)、「学校施設・設備に関すること」(全体:58%)  
「生徒指導に関すること」(全体:62%)と続いています。

### 【学校評議員からの意見を教職員全体で共有する仕組み】

教職員全体で共有する仕組み	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度
共有し、対応するシステムがあり、全体及び担当分掌で対応することができる。	56%	60%	62%	<b>69%</b>
共有し、対応するシステムがあるが、十分機能しているとはいえない。あるいは共有できていない。	44%	40%	38%	<b>31%</b>

### 【学校評議員の方々からのご意見が教育活動に活かされた例】

- ・ 地域に広報していただき、園での活動に協力をしてくださる人を紹介してもらうことができた。
- ・ 玄関前の段差解消のために置いてある台が、かえって危険ではとの指摘を受け実際使用している保護者に意見を聞くことができた。
- ・ 保護者へのマナーや道徳観等について、園での指導が必要であるとの意見を頂き、地域行事への参加の際に保護者のマナーについて、注意喚起したところ、成果が見られた。
- ・ 体作りの取組として実施していた「チャレンジカード」の内容の見直しを行った。
- ・ コミュニティスクールを視野にいれ、地域ぐるみの子育て体制の構築に向け、オープンスクールの実施や支援体制の組織化等取組を進めることができた。
- ・ 放課後子ども教室において、地域の遺産について学ぶことができた。
- ・ 通学路の危険箇所の指摘を受けたので、担当職員とその解消を図ることができた。
- ・ クラブ活動や家庭科の実習のゲストティーチャーについて相談したところ、何人かのボランティアを紹介していただくことができた。
- ・ 学級懇談時の児童預かり補助を地域の方にお願ひし、回数を増やしていただくことができた。
- ・ 図書室の補助支援、環境整備の支援、学習の支援を行っていただくことができた。
- ・ 教員との合同の研修や情報交換を行うことができた。
- ・ 地域の意向を配慮した運動会の持ち方について意見を聞き、反映することができた。

各学校園で行われた学校評価をいかに年度末総括に反映させ、次年度の学校園づくりにつなげるかが、さらなる教育改善につながります。P D C AサイクルのAは学校園を変えるためのアクションです。それは全教職員が評価を共有することから始まります。

また多くの協力を得て出した評価を、子どもたちや地域の方々と共有することも、アクションを起こすために必要です。学校便りや学校ホームページなどでの公開も、非常に有効な方法となります。

## 2、学校評価の実施

### 【学校評価を進める仕組みの有無】

学校評価を進める仕組み	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度
学校評価を進める 校内委員会等を組織している。	75%	79%	88%	<b>87%</b>
全教職員参加のもとで 学校評価を進めている。	89%	94%	93%	<b>91%</b>

平成 25 年度内訳 (校内委員会等の組織している。／全教職員が参加している。)

幼：68%／95% 小：98%／96% 中高：96%／74%]

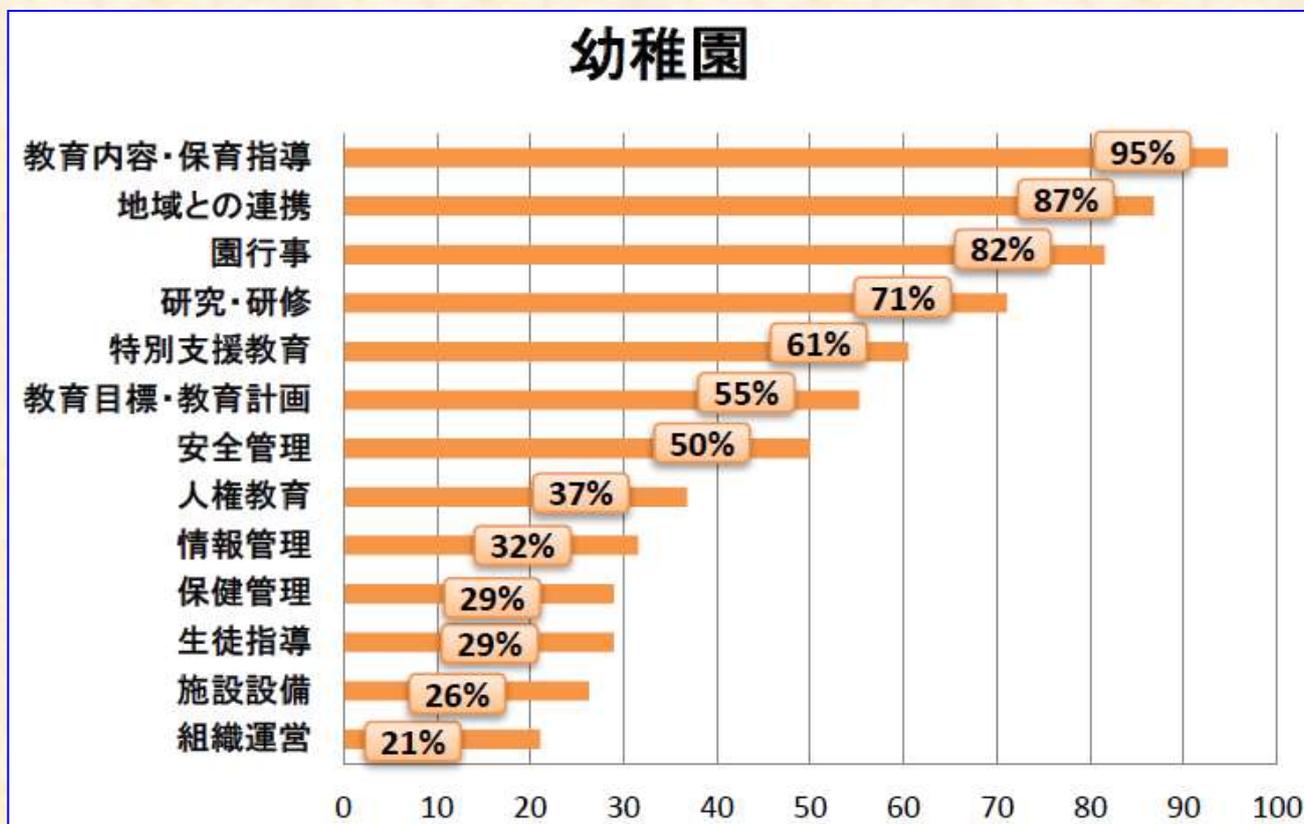
### 【評価結果に基づく改善方策の検討を行う体制】

学校評価を進める仕組み	幼稚園	小学校	中高等学校	全体
全教職員参加の体制で行っている。	100%	93%	78%	<b>92%</b>
学校評価関係教職員で行っている。	0%	7%	18%	<b>7%</b>
主に担当者が行っている。	0%	0%	4%	<b>1%</b>

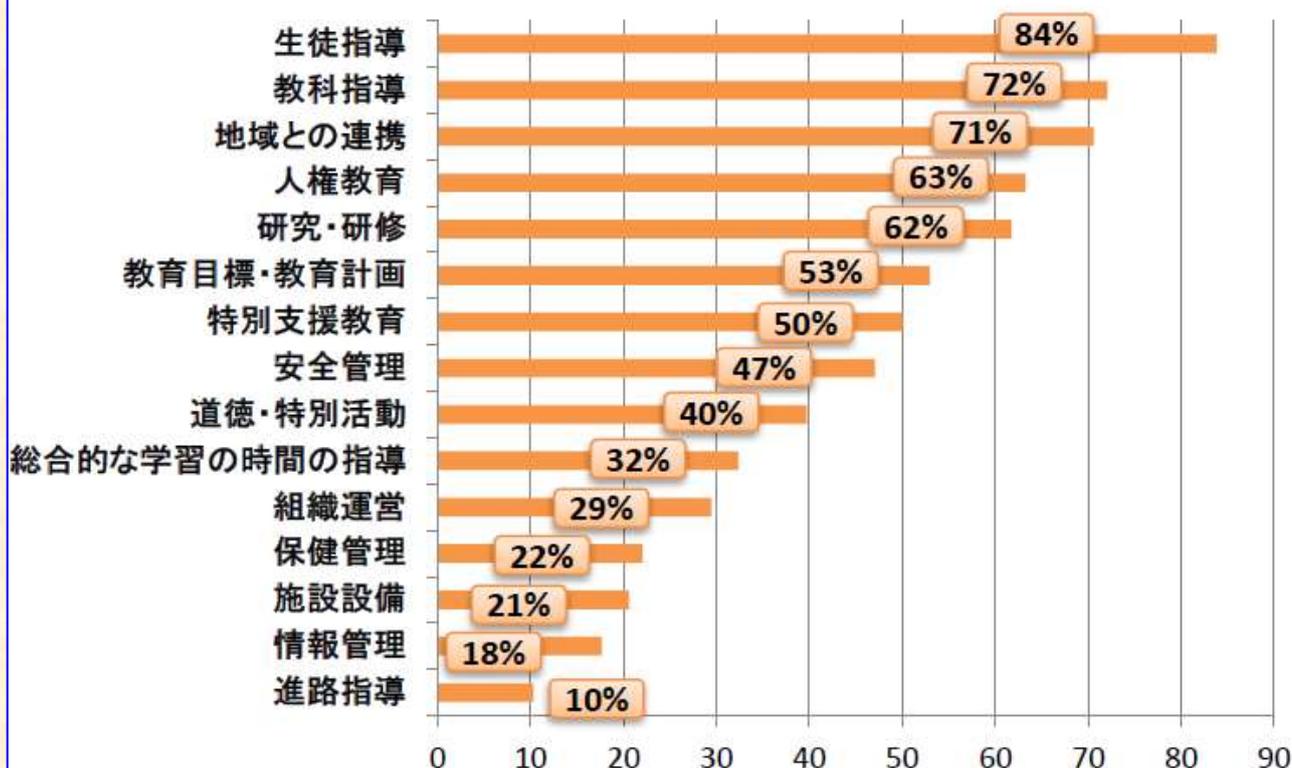
【外部アンケート（児童生徒・保護者等を対象としたアンケート）の実施割合】

	幼稚園	小学校	中学校	全体
年度末に1回実施	47%	27%	26%	34%
年度末以外に1回実施	37%	67%	61%	55%
年2回（1学期末、2学期末）	5%	4%	9%	6%
その他（行事ごと等）	11%	2%	4%	6%

【各学校園が設定した重点的な目標（評価項目）】



## 小学校・中学校・小中学校・高等学校

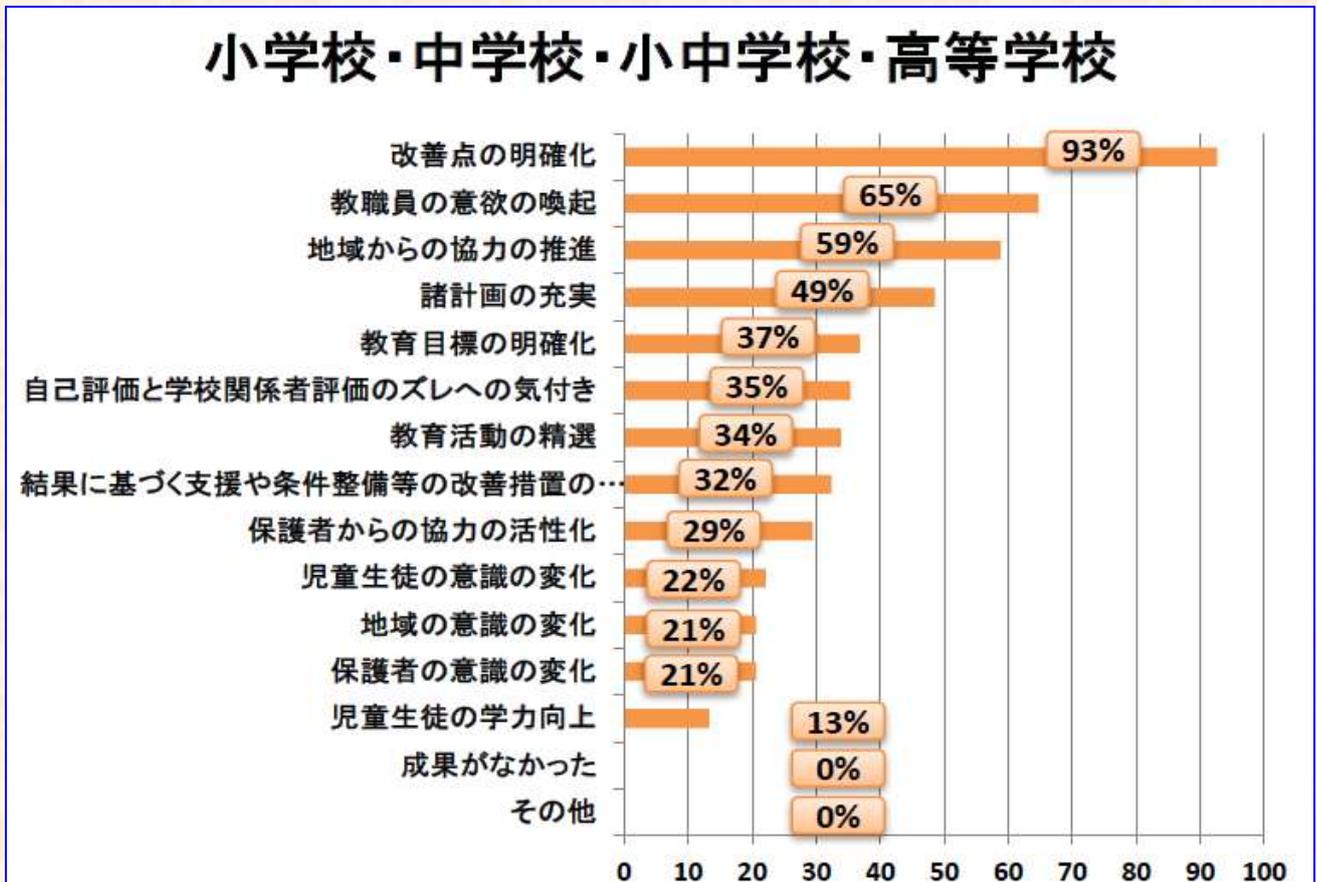
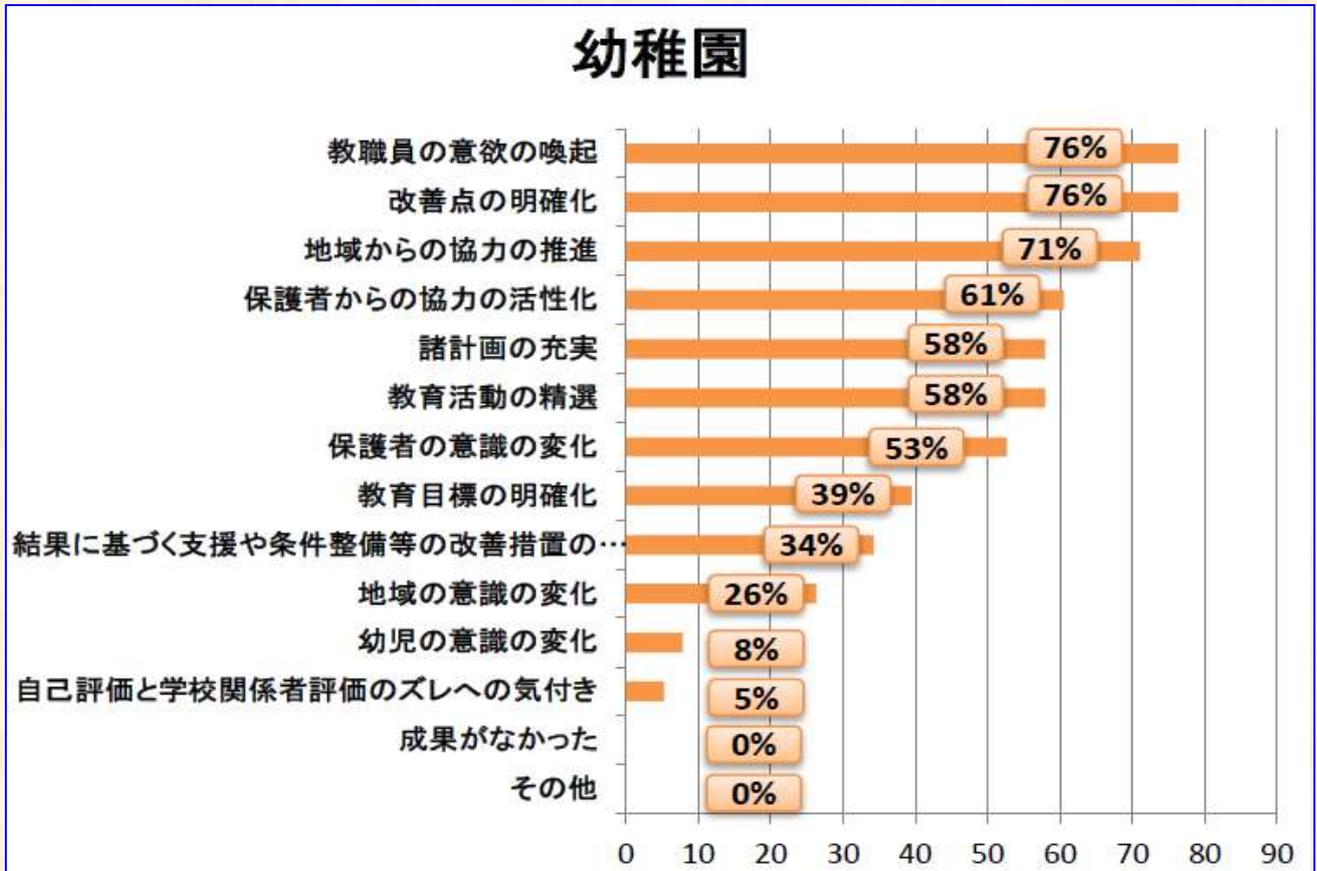


### 【学校関係者評価の実施について】

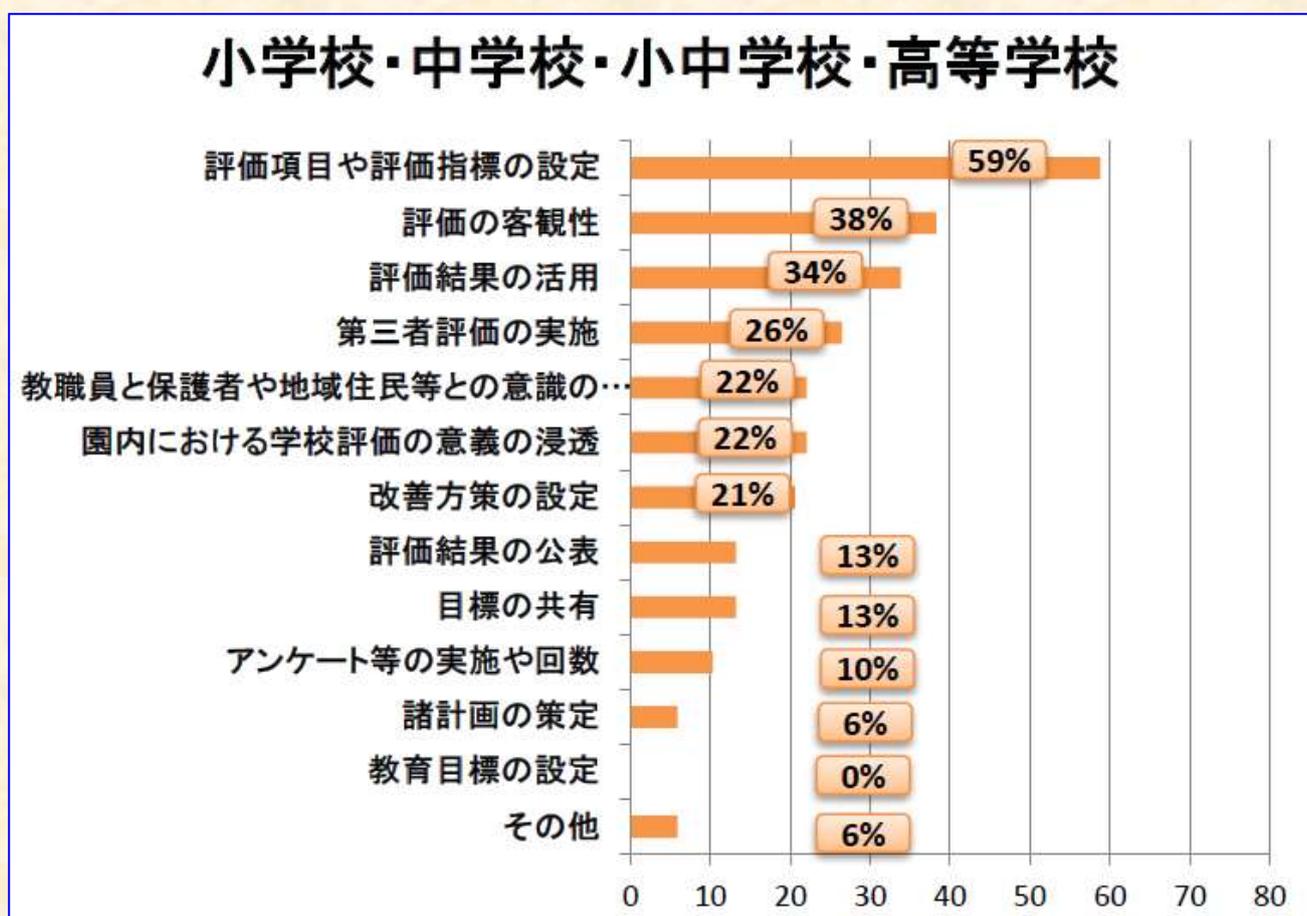
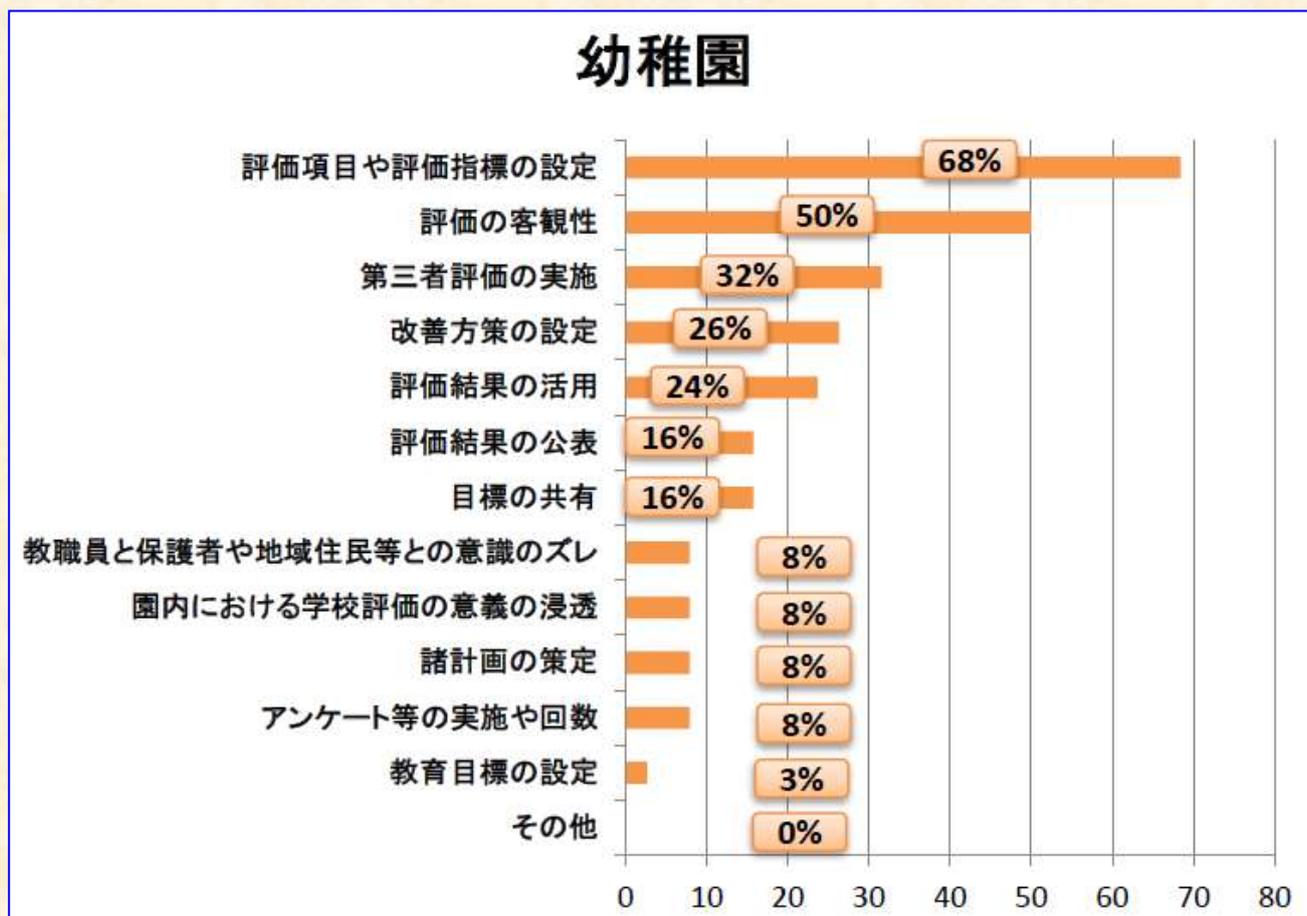
	幼稚園	小学校	中高学校	全体
評価者に学校の自己評価の結果と課題に対する改善策を示している。	74%	76%	39%	<b>67%</b>
学校の教育活動の取組を評価者に説明するとともに、普段の教育活動や学校行事を参観する機会を設けている。	95%	82%	70%	<b>84%</b>
評価はアンケート形式で回答を求めている。	68%	51%	57%	<b>58%</b>
評価者の意見を聞く場を設定し、学校の教職員と直接、意見交換している。	24%	9%	17%	<b>16%</b>

### 3、学校評価の成果と課題

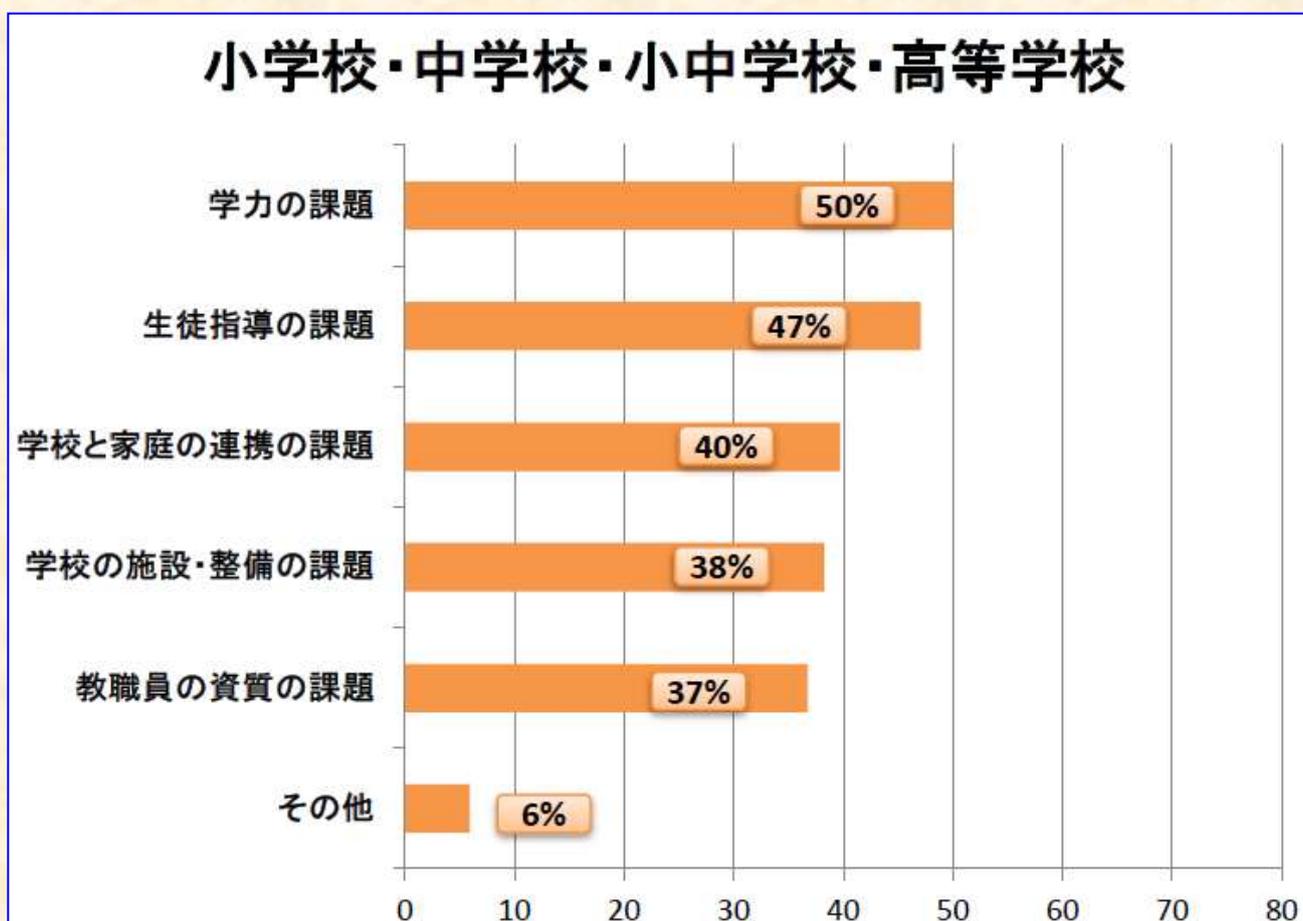
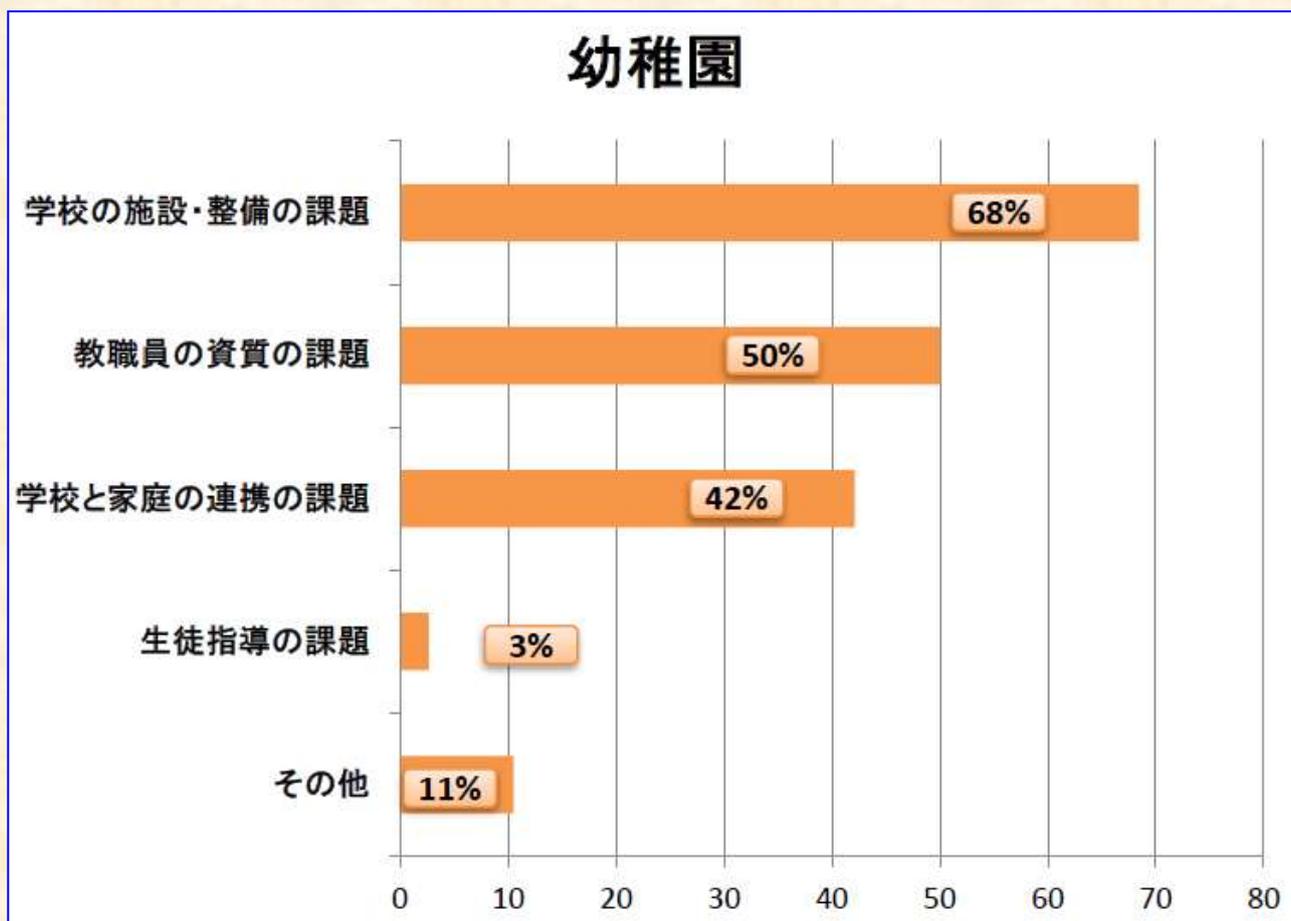
【学校評価を行ったことで得られた成果】



【学校評価をすすめる上での課題】



【学校評価結果から指摘できる、学校が抱かえる学校経営上の課題】



## 【学校評価結果から指摘できる、学校が抱かえる学校経営上の課題の具体的解決策の例】

### 〔学校と家庭の連携に関すること〕

- ・ 機会を捉えて話し合い、園の教育方針を話し合ったり、互いの思いを受け止めあう中で、信頼関係を築き、一緒に子育てをする体制を整える。
- ・ 参観・懇談の機会に、保護者と共に課題解決の方策を話し合ったり、学級だより、園長だより等により保護者の意識化を図ったりする。
- ・ 継続した挨拶運動を続け、保護者・PTA・地域にも協力を呼びかける。
- ・ 学校が重点的に取り組んでいる教育活動を、保護者に評価していただくアンケートの設定を工夫する。

### 〔生徒指導に関すること〕

- ・ 日頃からみんなで人権意識を大切にしたい取組を推進する。
- ・ 全職員が一致して児童の規範意識を高める為の努力をする。
- ・ いじめの早期発見・根絶を目指し、全職員の情報共有化システムの構築と有効利用を図る。
- ・ 子どもの生活背景に厳しさがあがり、家庭支援の必要性和保護者の理解・協力を得るべく情報発信と啓発に努める。
- ・ 子どもたちの自主性を育てる取組やセルフエスティームを高める取組を進めていく。
- ・ 基礎的な生活習慣を身に付けることに集中して取り組み、家庭訪問等を通して家庭の協力を得る努力を積み重ねる。

### 〔学力に関すること〕

- ・ 本校の捉える「子ども力」を職員で共有し、自尊感情を高める取組を基盤に学習に向かう意欲を育てる。授業においては、認め合い学習を柱に学習活動を行う。保護者に啓発し、家庭学習の習慣化を図る。
- ・ 低学力傾向の解消を目指し、低学年から高学年まで意欲が続く指導法の研究。表現したり、意図を汲み取ったりできる生きる力の育成。
- ・ 二極化傾向にあるため、共通理解を図り、支援のあり方など方策を考える。
- ・ 学びの共同体を手法に取り入れ、コミュニケーション能力・課題解決能力等、キャリアの能力を向上させることで学力向上に向けた解決を図る。
- ・ 低学力の克服の改善が課題であり、「おちこぼしなし」をテーマに教科だけでなく、教職員全員で個別指導等の必要な生徒の対応に当たる。
- ・ 小中で一貫した基礎学力の定着を図る。
- ・ 家庭教育力の向上を目指し、啓発活動を強化する。
- ・ カリキュラムを充実させ、キャリア教育の視点から生徒に目的意識を持たせるような指導を行う。

### 〔施設・整備に関すること〕

- ・ 保育内容・環境構成・援助の在り方等の研修を深めていく。
- ・ 児童の安全第一に施設修繕を実施する。地域ボランティアの活用。
- ・ 対処療法になるが、可能な範囲での職員による応急処置をする。

## 4、学校評価と学校ビジョン

### 【学校評価結果をうけて、改善しようとしている学校ビジョンの内容】

- ・ 現在は年 1 回の学校関係者評価を実施しているが、年 1 回では保護者の思いや願いを十分に受け止めきれない部分があるので毎日の送り迎えの際の保護者との連絡を密にしていきたい。また、保育参加や保育自由参観の回数を増やし、保護者がさらに幼稚園の様子を理解してもらえるように考えていきたい。
- ・ 有利な環境(世界遺産)と園の現状(過少規模園)を踏まえた保育内容の精選と充実を図る。
- ・ 「幼小中連携」について、子ども・保護者の交流は計画的に推進し、教育効果をあげている。今後は更に教職員の合同研修等を実施し、共通課題を明らかにしながら連携を推進していきたい。「〇〇教育の推進」等の言葉でなく、誰にでもわかりやすい具体的な言葉での表記をする。
- ・ 地域とのつながりを大切にする。地域教育協議会との連携を密にして、地域から学んだり交流したりする機会を多くする。
- ・ 学校教育ビジョンが職員に浸透しにくかったものであることから、本校の実態をもう一度見直し、全員で目標に向かっていけるようなものにしていきたい。本校の教育の根源になるところは今後も大切にし、ここ数年の実態を改善できるようなものにしていきたい。
- ・ 頑張っているが児童・保護者に伝わっていないことがある。はっきりと保護者や児童に担任の教育を意識させるために、同じことであっても常に繰り返しPRしていくことが大事である。そしてそのことが学級や学校の教育に繋がることを職員に強く認識させていく。そのために、職員向けの話の充実と教育情報のプリント配布を行う。
- ・ 小中一貫教育の実施にむけ、中学校区における課題を踏まえた、学校ビジョンの構築。
- ・ ビジョンそのものを大きく変更する必要はないと考えている。ただ、授業が教師主導になっていることが児童の授業への意欲喚起を妨げていると思われる。そのため、児童が活躍する場面を増やせるよう、特に総合的な学習の時間を中心に授業改善を一層進める必要があると思われる。また、今年度の取組をもとに、さらに学校の特色ある取組の内容充実を図り、保護者や地域へのアピール方法を工夫する。
- ・ 校内評価と外部評価のずれの大きい項目と低い評価項目について考察・分析し、学校ビジョンの重点課題に明記したい。特に、ビジョンの「確かな学力の定着」に関する外部評価の低さについて重大に受け止め、重点項目として強化策を示す。校内では、指導力向上のため組織的学び合いとしてメンタリング制度を充実させる。
- ・ 多くの評価ポイントが向上していることもあり、現在行っていることをさらに充実浸透させることが大切であろう。学習面の期待として「学びの共同体」による手法をさらに拡大し、学力の向上を目指したい。